

2015 年度

水環境探究ワークショップ（2015 年 8 月）

琵琶湖南湖の人工湖岸と砂浜湖岸でどのような水環境の違いがあるかについて仮説をたて、科学的に検証・考察し、新たな問いを発見する過程で、水環境に関わる研究の手法を学び、研究のおもしろさ、難しさなどを学ぶことを目指しました。

水辺は陸域と水域の両方の影響を受け、水位変動もあり環境変化の大きいところですが、生物の種類は豊富で、人との関わりがもっとも大きな場所です。琵琶湖をはじめ多くの湖沼で湖岸の内湖の埋め立てや湖岸堤の建設などが行われ、人間生活に

とってはプラスになった反面、水辺にすむ野生生物の生育環境に大きな影響を与えていることが考えられます。そのような背景も踏まえて水環境調査を行いました。



ワークショップの概要

<スケジュール>

	時間	内容
1 日目 8/19(水)	10:00	●受付（本校）
	10:30～12:00	●調査活動のための学習会 ①琵琶湖の水環境と沿岸帯 ②調査活動の内容とその意味について
	13:30～15:45	●調査（砂浜海岸 3 班 人工海岸 3 班に分かれて調査を行う）
	18:30～20:30	●交流会
2 日目 8/20(木)	9:00～12:00	●データ収集
	13:00～17:00	●データ収集 データ分析 発表準備
	19:30～21:30	●発表準備など
3 日目 8/21(金)	9:00～12:00	●発表準備
	13:00～14:30	●発表、講評



(1) 参加校数及び人数

国内 4 校（本校含む） 合計：17 名

(2) 調査地点と調査時間

①大津市におの浜（なぎさ通り沿いの人工湖岸） 13:15～15:45…2 時間 30 分

②大津市柳が崎（滋賀県琵琶湖環境科学研究センター裏の砂浜湖岸） 13:30～15:30…2 時間



(3) 調査活動の概要

砂浜湖岸、人工湖岸ごとに水上チームと陸上チームに分かれ、水上チームは①→②→③→④の順で、陸上チームは⑤→⑥→⑦→⑧の順で調査活動を行う。（120 分）

調査活動の順序について	水上チーム 4 名		水上チーム 4 名	
	①ボート組立・漕ぐ練習	30 分	⑤水草の採集（3 か所）	25 分
	②多項目水質計による水質調査（湖岸から 20m 沖水深 2m）とバンドーン採水器での水の採取（調査ポイントでイカリを下ろす）	20 分	⑥プランクトンの採集（2 か所）	25 分
	③採泥器で底泥の採取（2 か所）（20m 沖 5m 沖 [砂浜] / 8m 沖 [人工]）	20 分	⑦水辺の貝と水草の採集	30 分
	④湖岸の構造・水深の測定（湖岸から 3、6、9、12、15、20、25、30m の水深と湖底状態の記録）	30 分	⑧底泥中の生物のより分け	20 分
	後片付け・予備（20 分）			